

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	20

事業所番号	1494000035
法人名	社会福祉法人 松友会
事業所名	ピースフルライフさくら草
訪問調査日	平成23年3月29日
評価確定日	平成23年4月22日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494000035	事業の開始年月日	平成19年4月1日	
		指定年月日	平成19年3月1日	
法人名	社会福祉法人 松友会			
事業所名	ピースフルライフさくら草			
所在地	(259-1132) 神奈川県伊勢原市桜台 3-9-3 2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者に安心して生活していただけるように、職員が穏やかな優しい雰囲気に対応するように心掛けています。22年度は、職員が退職する事もなく、ご利用者もほとんど変わることが無かったので、お互いに顔なじみの関係になっていると思います。また、地域の方との交流も継続し、地域で孤立することの無いように努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年3月29日	評価機関 評価決定日	平成23年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴

①さくら草は、社会福祉法人 松友会の運営である。松友会は特養、ケアハウスを併設する「らんの里」とグループホームと認知症対応型デイサービスを併設した「すずらん」が市内沼目にある。また、近くに医療法人松和会の運営する老健施設もあり、福祉ゾーンが形成されている。「さくら草」はそれらと少し離れた町中の住宅地にある。平成19年4月に小規模多機能型居宅介護と、1ユニットのグループホームが1つの建物に併設された形で設立された。小田急線伊勢原駅から歩いて10分位いと便利なところにあり、地域に溶け込んだ、違和感の無い建物で、玄関には入居者のご家族が丹精された四季の花々が咲き、地域にマッチした佇まいである。開所時に職員が意見を出し合い7項目の理念を作成した。理念の中には地域との交流を大切に、地域に根ざすことを目標に謳っている。丸4年を経過したが、スタッフの退社が少なく、ケアが安定しているため、利用者も安定した生活が送れている。開所当初からの入居者が6人もお元気で在籍され、新規の3人のうち2人が小規模からの入居者、残り1人は同系列「らんの里」の居宅からの入居と親しんでの入居であることも利用者の幸せであると考えられる。

②この地域は自治会が非常に活発であり、防災に対する住民の意識も高く、毎年の防災訓練の時には300人余の方が参加されている。さくら草も自治会に加入し、回覧板も回覧して頂く等、防災訓練にも参加している。毎年、自治会主催の盆踊りには入居者とご家族が参加している。地域ボランティアでは絵手紙、フラワーアレンジメントや鍼灸師の方が利用者の治療が終わった後、皆さんと健康体操をして下さっており、いずれも好評である。

③ケアについてはご利用者を中心に、自然体で、無理をせず、ゆったりした対応を心がけている。ご利用者は掃除等の家事の他に外出や季節の行事を楽しんでいる。介護計画については、カンファレンスによるアセスメントに沿い、ケアマネジャーが中心となり行っている。小規模事業所とのコラボレーションについても4年の経験が糧となり、互いに補完する体制が出来ている。利用者の面では利用者同士の確執があった場合の小規模での気分転換(逆も同様)や、イベント等の共催など、1+1を2以上に活用出来ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ピースフルライフさくら草
ユニット名	認知症対応型共同生活介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の一員として安心して宅生活を継続できることを基本とし、それに沿って、支援している。	松友会の考え方を基に、職員それぞれの想いを会議で話し合って作り上げたさくら草の理念を実践している。家庭的な雰囲気の中で地域の一員として安心して生活を継続できることを基本とし、それに沿って、支援している。丸4年を経過したが、スタッフの退社が少なく、理念はミーティング等を通じてケアに定着している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域ミニデイや自治会主催の盆踊り等の行事に参加している。また、毎年防災訓練に参加し、地域の方との親交を深めている。	この地域は自治会が非常に活発であり、防災に対する住民の意識も高く、毎年の防災訓練の時には300人余の方が参加されている。さくら草も自治会に加入し、回覧板も回してもらっており、防災訓練にも参加している。毎年、自治会主催のあじさいクラブ（地域ミニデイ）や盆踊りには入居者とご家族が参加している。東北関東大震災の時には自治会長が心配して来てくれた。地域の方の心配りが嬉しい。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や民生委員、地域包括支援センターの方に、さくら草での支援方法等の報告をしている。また、あじさいクラブに参加することで、地域のボランティアや高齢者の方とグループホームの入所者や職員が交流することが出来、状況を理解していただいていると感じる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	21年度より隔月開催とし、回数を増やした。グループホームと共同開催し、それぞれに状況報告等を行い意見交換をしている。出された意見等は日々のサービス提供の参考としている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、同一建物内にある小規模多機能事業所と共催で開催している。メンバーは自治会長、民生委員（2名）ご家族、地域包括支援センターの方、市役所職員それに法人及びホーム関係者である。利用者の状況やサービス提供の実際について報告を行い、意見を頂いている。また、評価結果及び指摘事項についても報告をし、意見等を頂いている。防災については会長が熱心であり、ご協力を頂いている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席して貰い、状況を伝達している。また、必要に応じて担当者に制度的なことなど確認しながら、連絡を取り合っている。今年度開催された入所系施設のネットワーク会議には、市の介護保険課長や職員の方の参加があった。	運営推進会議にも出席して貰い、状況を伝達している。また、必要に応じて担当者に制度的なことなど確認しながら、連絡を取り合っている。今年度開催された入所系施設のネットワーク会議には、市の介護保険課長や職員の方の参加があった。地域包括支援センターとも運営推進会議を通じて良好な関係が出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは全職員が理解し、実際に身体拘束はしていない。ただ、外出時事故が起きる可能性が非常に高いため、玄関は電子錠になっている。	身体拘束をしないケアは全職員が理解し、実際に身体拘束はしていない。但し、小規模多機能事業所と同じ玄関であり、外出時事故が起きる可能性が非常に高いため、玄関は電子錠になっている。回りは広々しており、駐車場で日光浴等を行い、閉塞感が無いケアを心がけている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止方については一部職員が学ぶ機会を持った。虐待防止法の冊子を元に職員会議で統一した認識を持ち、入浴時など身体的な異常がないかどうか注意している。また、日常的に苦痛を感じている事が無いかどうか注意しながら対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について管理者、介護支援専門員が学ぶ機会を持った。また、家族代表として成年後見の方に運営推進会議に出席していただき、制度的な説明をして頂くこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当の介護支援専門員が、家族や時には利用者も同席の上で締結している。解約、改定も同様に説明し納得して貰っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を遠慮することなく話していただくよう重要事項説明の際に話している。法人、市、国保連の相談窓口を玄関に明記している。意見の有った時は対応するよう心掛けている。また、毎年家族会を実施し、状況報告の後、意見、要望を頂くようにしている。	利用者の意見、要望については日頃のケアの中で聴くようにしている。ご家族の意見、要望については家族会及び来訪時などに、具体的にお聞きするようになっている。重要事項説明の際に意見等を遠慮することなく話して頂くよう話している。法人、市、国保連の相談窓口を玄関に明記している。意見の有った時は早急に対応するよう心掛けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催している職員会議や朝のミーティング等で随時意見、提案を聞き、反映させている。	定期的開催している職員会議や朝のミーティング等で随時意見、提案を聞き、反映させている。自己目標を設定しており、施設長、人事担当の面接もあり、個人的な希望や悩みなども話せる機会をもっている。処遇改善及びキャリアパスを含んだ考課表に沿って4月から個人面接も全社的に実施していく事となっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個人面接を順次実施し各自の意見等を聞きながら向上心を持てるように働きかけている。また、勤務状況等は随時把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全員を対象としている。また、技術や知識の向上に繋がる研修への参加を勧め、必要に応じ指名し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市の連絡会参加や、市内事業所の相互訪問の実施により、他者と交流しながらサービス向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に管理者、相談員等が家族等に本人の状況や希望等聞きながら、安心して生活していただけるような関係作りに努めている。その際に意向に添えるような提案をして安心していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同様に家族との話し合いの時間をもち、安心していただけるよう対応している。何回か家族が納得するまで繰り返し相談等行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望を踏まえながらも家族の意向を汲み取る努力をしている。何回かご家族が納得するまで繰り返し相談等行い、グループホーム入所以外の選択肢の提案もしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族や本人の希望を聞きながら、家事への参加等を促し、その都度感謝の気持ちを表している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が来所されたときは普段の生活の様子を詳しく話すようにしている。利用者の状況に変化があった時などは随時報告し、場合によっては受診等をお願いしたり、一緒に外出を勧めたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談しながら家族や馴染みの方たちが出来るだけ多く訪問して下さるよう働きかけている。また、可能であれば自宅への帰宅も勧めている。	入所しても地域で安心して暮らしていけるよう、家族と相談しながら配慮している。また、近隣の方ともコミュニケーションをとっている。地域の方が多く、古い友人などが来てくれるている。入居前関係のあった宗教団体の知り合い、ご近所の方、友人等との交流は維持している。ご家族も頻繁に訪問してくれている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファや食事の席など、孤立する人が出ないようにさりげなく誘導している。サービス利用日に関しても、なじみの良いと思われる日を紹介し、勧めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約終了しても、その後の相談などに随時対応し、病院のSW等と連絡を取ることも可能であると伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が可能な利用者には随時希望等聞くように心がけている。それが難しい方場合は家族の情報や生活されている様子から本人の意向を汲み取るように努めている。	意思疎通が可能な利用者には随時希望等聞くように心がけている。それが難しい方場合は家族の情報や生活されている様子から本人の意向を汲み取るように検討している。職員は利用者について気付いたことを申し送りノートに記載し、スタッフ会議で確認するようにしている。の充実を図り、パソコンで毎日作成する申し送り表（＝ケース記録）に反映するようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の面接時や家族が来所されたときなどに、本人を交えたりしながら聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や生活の様子など職員間で情報交換しながら把握するようにしている。また、家族やかかりつけ医とも連携しながら身体状況等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、あるいは利用者の状況に変化が生じたとき、ケアマネージャーが中心となりプランの見直し等行っている。職員会議や毎日のミーティングでも随時支援方法の検討や変更を行なっている。	アセスメント表及び介護計画はセンター方式に近い形で、申し送り表（＝ケース記録）をベースとしながら管理者、ケアマネージャーを含む常勤者3人で素案を作成し、カンファレンスで話し合い作成している。定期的、あるいは利用者の状況に変化が生じた場合はケアマネージャーが中心となりプランの見直し等行っている。職員会議や毎日のミーティングでも随時支援方法の検討や変更を行なっている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日の担当者が日中と夜間の状態をそれぞれ個人記録に残している。また、特変があったときには別の申し送りノートに記入し、漏れなく情報が共有できるようにし、共通の支援が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の状態を見ながら、必要に応じて様々なサービスの提示等をし、より良い支援が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をしている方たちにさくら草に来て頂き、生活が活性化するように働きかけていただいている。また、防災面では運営推進会議で自治会の方たちと情報交換している。災害時には消防署の応援をお願いし、安心して生活して頂くよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族対応で受診をして頂き、受診後に家族に状況報告して貰っている。家族対応が難しい方には訪問診療の紹介をし、受診の支援をしている。緊急時にはかかりつけ医に連絡し対応している。	基本的に主治医継続の方は家族対応で受診をして頂き、受診後に家族に状況報告して貰っている。家族対応が難しい方（約半数）には訪問診療（2名の医師）の紹介をし、受診の支援をしている。緊急時にはかかりつけ医に連絡し対応している。看護師はさくら草として2名採用し、小規模も含めて見て頂いている。週5日を2人のローテーションで賄っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで情報等伝え、相談している。また、身体的に変化等あった場合は随時相談している。特に入浴時など看護師に全身状態を確認してもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	円滑な入院生活が送れるよう情報提供している。また、必要に応じて随時SW等と連絡しながら早期に退院できるように支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の限界性について早い段階から家族には話をしていて、状況によっては家族と話し合いをし、本人や家族の希望を聞きながら各種施設の紹介等している。また、近隣の施設の相談員等との連携も常時行っている。	医療連携の同意書を取っているが、契約時に特養の予約もお話しし、お勧めしている。事業所の限界性について早い段階から家族には話をしていて、状況によっては家族と話し合いをし、本人や家族の希望を聞きながら各種施設の紹介等している。また、近隣の施設の相談員等との連携も常時行っている。法人内に特養もあり、医療機関とも密接な関係にあるのでご家族はその点では安心している。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人主催の講習会や、さくら草での職員会議等で対応の方法等は確認している。初期対応についても随時申し送り等で確認しあっている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。夜間想定についても実施している。地域の防災訓練にも参加し、自治会長とも話し合いをしている。地域の消防署でさくら草での緊急時の救助方法等を確認している。	年2回の防災訓練を実施。夜間想定についても実施している。地域の防災訓練にも参加し、自治会長とも話し合いをしている。地域の消防署でさくら草での緊急時の救助方法等を確認している。東北関東大震災の時には自治会長が心配して来て下さった。地域の方の心配りが嬉しい。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい関係を築きつつも、人格を尊重した言葉使いを心掛けている。特に入浴やトイレの介助の時にはプライバシーに気をつけ対応している。	人格の尊重とプライバシーの確保最優先のケアに努めている。親しい関係を築きつつも、人格を尊重した言葉使いを心掛け、特に入浴やトイレの介助の時にはプライバシーに配慮して対応している。人格の尊重、プライバシー等については、法人及びホーム内で研修を実施し、徹底している。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る利用者には自己決定してもらうよう働きかけている。そうでない利用者には丁寧な言葉掛けを心掛けている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事の時間等、本人のペースに合わせて柔軟に対応している。必ず声掛けし、意思確認している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながらも、第三者が不自然に感じない身だしなみを心掛けている。随時美容師に来所してもらい、それぞれの入所者に合った髪型にカットしてもらっている。お化粧の支援もしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに関しては出来る範囲で対応しているが、体調や咀嚼、嚥下の状態に合わせた食事を作り心配なく食べられるよう心掛けている。数名の利用者と後片付けを一緒にしている。	独自のメニューで、利用者の希望を聞いて、一緒に買い物に行き提供している。食材は週2回のコープの注文と新鮮な地元野菜等を販売するわくわく広場（市場）を利用している。好みに関しては代替食等で対応している。また、体調や咀嚼、嚥下の状態に合わせた食事を作り、利用者が心配なく食べられるよう心掛けている。食事も後片付けも数名の利用者と一緒をしている。管理者は栄養士でもあり、栄養のバランスを確認している。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスは栄養的な偏りが無いよう常に気を配っている。糖質や塩分の制限にも対応している。また、食べ易いように刻みやペーストなどの対応もしている。水分摂取量が不足しないように食事時以外にもお茶やミルクコーヒーなど提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後必ず実施している。また、訪問歯科診療の医師とも連携し、口腔の状態を良好に保つよう支援している。義歯を使用している場合は、夕食後義歯洗浄剤で毎日洗浄している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所者の多くがリハパン対応をしているが、必ず声かけし、トイレで排泄するよう支援している。	立位が可能な利用者はおむつ対応していても必ず声かけを行ない、トイレで排泄するよう支援している。動かないと自立度が低下するので、トイレまで歩いてもらうようにしている。リハパンやオムツに変わる段階ではご家族に話すようにしている。常に、布パンに出来ることを目指して対応している。	今後の継続	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜や芋、海藻類など多く使用している。毎朝体操への参加を促し、排便の確認も行っている。また、便秘気味の場合は看護師に相談し、腹部マッサージ等行っている。主治医とも連携し、その人の状態に合った下剤等を処方してもらい、日々の記録を参照しながら服用してもらっている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴の曜日は決めているが、本人の意向に沿わない場合は変更している。時間も声掛けするが、本人の状況に合わせて午前中に臨時で入浴してもらうなど流動的に対応している。	人数に限りがあるので基本的に曜日は決めているが、本人の意向に沿わない場合は変更している。時間も声掛けするが、本人の状況に合わせて流動的に対応している。浴槽に入るのが難しい方や二人介助が必要な方も増えている。週3回、1日4～5人のグループで実施していたが、東北関東大震災以降の計画停電後は1日3人のグループで対応している。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族の希望でベッドやソファでの休息に対応している。その日の体調をみながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は全員が確認できるようファイルになっている。状態の変化があったときは看護師等が家族と連絡を取り確認している。また、間違っって服薬介助することのないように複数の職員でチェックする体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の好きな方や、歌の好きな方などその方に合わせた気分転換の支援をし、喜んでいただくようにしている。また、働く事で喜びをかんじる入所者も多いので、洗濯畳みや袋折などの作業をして頂くように働きかけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強いときには個人の希望を聞くことも有るが、一人ひとりの希望に沿った支援は出来ていない。家族等が来所された時に一緒に外出し気分転換を図っていただくようお願いしている。気候の安定している時は戸外で日光浴や散歩をするように心掛けている。	帰宅願望が強いときには個人の希望を聞くこともあるが、必ずしも一人ひとりの希望に沿った支援が出来るとは限らない。家族来所時に一緒に外出し気分転換を図って頂くようお願いしている。気候の安定している時は戸外で（ベランダ、駐車場）外気浴や散歩をするように心掛けている。自治会のあじさいクラブへ参加出来る方は年々減ってきている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はほとんどいない。買い物等の希望のあるときは立替でお金を持っていき、一緒に買い物をする場合も有る。また、お金を持っていない不安感をなくすよう「お金は金庫にお預かりしているので大丈夫です。」と伝え安心してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある入所者には電話対応するときもある。はがきは時々きている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員同士の会話や食事の後片付けの際に不快な音がしないように心掛けている。また、まぶしいと訴えがあったときや、真夏の強い日差しはカーテンで遮るなど状況に応じて対応している。	職員同士の会話や食事の後片付けの際に不快な音がしないように心掛けている。また、まぶしいと訴えがあったときや、真夏の強い日差しはカーテンで遮るなど状況に応じて対応している。季節の花や行事に合わせた飾り付けをし、居心地の良い空間を提供するようにしている。写真やフラワーアレンジメントのお花なども飾って居心地よく過ごせるよう工夫に努めている。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室など利用して、希望があれば個別やグループで過ごせるように対応している。昼食後は居室で一人になりほっと息がつけるような時間を作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、普段使い慣れているものを持ってきてもらい安心して過ごせるようにしている。	ご家族と相談頂き、本人が普段使い慣れているものを持ってきて頂き、馴染みのあるもの等を配置し、安心して過ごせるように支援している。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などできる限り本人のできることをしていただき、最小限の援助ですむように手すりを設置したり、段差を無くし安心して歩行できるようになっている。逆に物があることで混乱してしまう入所者の居室は、何も置かず、安心してもらうようにしている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

社会福祉法人 松友会
ピースフルライフさくら草
認知症対応型共同生活介護

作成日

平成23年4月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	日常的な事柄の認識が難しくなっているご利用者が、日々の生活の中で混乱してしまう事がある。	ご利用者に安心して生活していただく。	一人ひとりの状況を把握できるようにスタッフ間でこまめに情報交換をし、ご利用者が落ち込まれる事の無いようなサポートをしていく。	1年
2	34	身体的に低下してきているご利用者や、急変時の対応。	介護職員の医療面での知識・技術の向上とご家族との連携。	松友会全体の講習会への参加。さくら草独自の勉強会の実施。主治医との連携に努める。	1年
3	37	自分の気持ちをそれぞれのご利用者が主張される事で言い合いになることが多々ある。	個人を尊重しながらも穏やかに共同生活を送って頂く様にする。	状況によってはスタッフが入りその場の空気を変えていく。また、季節ごとの花見や地域ミニデイの参加などで外出等をし、気分転換して頂く。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。